

競 技 注 意 事 項

1. 規 則

本大会は、2022年度日本陸連競技規則ならびに大会要項に準じて行うが、参加者の年齢段階を考慮した教育的配慮のもとに競技を進行する。

2. 練習について

- (1) 走・跳競技はバックストレート側を使用する。

ジャベリックボール投げは、指定された時間帯にトラック芝生内で行う。競技場外側では行わないこと。

- (2) 全て練習は、審判員及び係の指示によって行うものとするが、監督又は引率責任者、競技者も危険防止を十分留意し練習を行うこと。

3. 競技者の招集について

- (1) 競技者は、競技に出られる服装（アスリートビブスを付けた状態）で、招集時刻完了5分前までに競技者控え所に集合し、競技者係の点呼とユニフォーム、アスリートビブスの確認を受け待機する。

※招集に遅れた場合は棄権とみなすので、十分気をつけること。

- (2) トラック競技は、招集所で腰ナンバーカードを受け取り、右腰やや後方に付ける。

招集時刻は、競技日程の欄のとおりとする。時間は、競技開始時刻を規準とする。

種 目	ラウンド	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	予 選	30分前	20分前
	決 勝	30分前	15分前
フィールド競技		60分前	40分前

4. 入場について

競技者は、招集完了と同時に係員の指示に従い競技場に入場し、競技終了後も指示に従い、規律ある行動をとること。

5. 走路順について

- (1) 100m、80mハードル、1000m、4×100mリレーの走路順は、プログラム記載のレーン番号とする。

- (2) 決勝の走路順は、本部で抽選し招集所及び記録掲示板に掲示する。

6. 4×100mRのオーダー提出について

リレーオーダー用紙は、6枚綴りを作成し、**競技開始1時間前**に招集所競技者係に提出する。

(リレーオーダー用紙は、招集所に用意する。)

7. 競技方法について

- (1) スパイクは、9mm以下の平行ピンとする。ただし、走高跳は、12mm以下とする。

- (2) 素足での競技は、禁止する。(夏季のオールウェザー走路は、火傷の危険があるため。)

- (3) トラック競技におけるフライング失格については、**旧来のルールを適用し、同一人が2回不正スタートをした場合、失格**とする。

- (4) スタートは、**クラウチングスタート**とする。※**スタート時の合図は、イングリッシュコール**とする。

- (5) **混合リレー競技は男女各3名までのエントリー**とし、**競技は男女各2名で行い、走順は自由**とする。

テイクオーバーゾーンは、30mとする。

- (6) 80mハードルは、スタートから第1ハードルまで13m、インターバル7m、最終ハードルからフィニッシュ11m、ハードルの高さ70cm、台数9台とする。

(7) 走幅跳は、全員3回の試技を行い、その後上位8名の者が、さらに3回の試技を行う、同一方向の2カ所（A、B）ピットで行う。

(8) 走高跳のバーの上げ方は次のとおりとする。背面跳びも可

男子	1m05 (練習)	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	以降3cm
女子	1m05 (練習)	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	—	以降3cm

(9) トラック競技の予選は、タイムレースとして、上位8チーム、8名を決勝に進出させる。
1000mは、タイムレースにより順位を決定する。

(10) ジャベリックボール投は男女とも、ジャベボールを使用し、投てき回数は、1人3回とする。場所はやり投げピットを使用し、助走は15m以内とする。

8. 表彰について

- (1) 個人種目は、1位から8位までに賞状を授与する。
- (2) リレー種目は、1位から3位までに賞状とメダルを授与する。
※リレー種目の表彰は、決勝メンバーの4名とする。

9. その他

- (1) 医務室は、スタンド下に置く。
- (2) 開会式については、別に指示する。
- (3) 選手の服装は、見苦しくないように注意する。
- (4) 更衣については、男女とも、スタンド下の更衣室を使用する。
- (5) 盗難防止には、各自十分留意する。